

## 令和4年度第11回公立大学法人滋賀県立大学役員会議事録

日時・場所：令和5年2月21日（火）15:30～16:30 評議会室

出席者：廣川理事長、宮川副理事長、山根理事、安原理事、高橋理事、林理事、上原理事、  
山本監事、元永監事

事務局：山田総務課長、高木財務課長、寺村経営企画課長、川分学生・就職支援課長、  
郡田教務課長、山中地域連携・研究支援課長、出口高等専門学校開設準備室室長  
前田課長補佐、藤居主幹

令和4年度第10回公立大学法人滋賀県立大学役員会議事録（案）は、原案のとおり承認された。

### 議 題

#### （審議事項）

#### 1 令和5年度計画（素案）について

寺村経営企画課長から資料に基づき説明があり、意見照会の結果も踏まえて、次回審議を行うこととなった。

〔主な意見・質疑等〕

- ・学位プログラムレベルおよび科目レベルでの教学アセスメントはどのようなことがされているのか。また、どのように学力を測定しているのか。  
⇒学科ごとに設定している学位授与方針（DP）に沿って科目を配置し、そこで教えられた内容を学生がどの程度修得したかを試験の成績分布や学生アンケート等を用いて測定することとしている。今年度アセスメントポリシーを策定したが、来年度はそれに沿った科目ごとのチェックリストを活用し、その結果を反映して翌年度にシラバスやカリキュラムの見直しを行うこととしている。
- ・授業料特別免除の仕組みについて、具体的に教えていただきたい。  
⇒これまで、成績が2年連続で下位4分の1であれば、授業料免除を受けられない仕組みであったが、成績が下位4分の1であっても、その後に卒業の見込みがある等の条件を満たす場合には授業料免除を受けられるように制度変更を来年度検討したい。
- ・ポストコロナと高専設置をキーワードにして、対外的な認知度を高め、ブランドの再構築をスタートさせる時期であるものとする。具体的には、ポストコロナについては、計画にも挙げられているが、戻るのではなく前向きにニューノーマルに着地させていくという意識を共有する必要がある。クラブやサークル活動へは、幅広い支援をお願いしたい。また、県大の認知度を向上させるために、高専設置を契機として、例えばロボコンやソーラーボートの自動運転レースなどの取組ができればよいのではないかと。  
⇒ニューノーマルについては検討したい。クラブ・サークル活動については、コロナ禍で一時期活動が抑制されていたが、今後コロナ前の状態に戻りつつある。ソーラーボート等の取組ができればイメージアップにもつながるので、考えていきたい。
- ・コロナ禍の状況から、中期計画の中で達成できなかつたり、達成が遅れたりした項目があれば示していただきたい。  
⇒次回の役員会で説明する。

(報告事項)

1 滋賀県立高等専門学校基本構想 1.0 (原案) について

出口高等専門学校開設準備室室長から、資料に基づき報告があった。

[主な意見・質疑等]

- ・教員の選任は非常に重要であるので、よい人材を早期に確保していただきたい。  
⇒あらゆる方法を活用し、慎重かつ迅速に、よい人材を確保していきたい。

2 令和5年度学校推薦型選抜等特別選抜試験の合格状況について

郡田教務課長から、資料に基づき報告があった。

3 令和4年度学位記授与式の実施について

川分学生・就職支援課長から、資料に基づき報告があった。

4 令和5年度入学式の実施について

山田総務課長から、資料に基づき報告があった。

5 令和5年度会議開催予定表について

山田総務課長から、資料に基づき報告があった。

(その他)

1 その他

寺村経営企画課長から、大学広報活動資料に基づき説明があった。  
高木財務課長から、未来人財基金への寄附について報告があった。  
山田総務課長から、学長退任記念講演会について案内があった。